

志賀直哉旧居
2018年度 前期
近代文学講座
〔文学表現の諸相〕

講師 植村正純（京大以文会会員）

<開講日>

2018年
前期 ① 4月23日(月) ② 5月28日(月) ③ 6月25日(月)
④ 7月23日(月) ⑤ 8月27日(月) 各 10:00~11:30

<講座内容> 『文学表現の諸相』

作家は、社会・人生における自己の内的衝迫を、それぞれのスタイルで文学に表出する。その作品の特性は、モチーフ、テーマ、創作過程、表現等の種々相を通して示される。次のⅠ～Ⅲについて、適宜、作家・作品例を選び、「表現の諸相」とその魅力をたどる。

Ⅰ [文学表現とのさまざまな出会い]
(心にしみた詩歌のモチーフ)

井上 靖、齋藤茂吉、北見志保子、堀 辰雄、石川啄木、ヴァレリー、杜牧、等の日本・海外の作家を例に、文学へのアプローチの種々相をみる。

Ⅱ [『暗夜行路』 (志賀直哉) の味読]

創作に25年の歳月を要し、難渋していた『暗夜行路』は、志賀直哉旧居在住（昭和4年4月～昭和13年4月）の間に完成した。
作品を通して、「気分」「自我」の文学表現の成熟をたどる。

Ⅲ [奈良と文学]
(描かれた風土を読む)

<作品例> 谷崎潤一郎『吉野葛』、水上 勉『壺坂幻想』、

会 場 (連絡先)
〔志賀直哉旧居〕 ☎ 631-8301 奈良市高畑町1237-2
☎・FAX (0742)26-6490